

「地域枠の医学生が有する将来へのビジョンと在学中に遭遇する困難」の全国調査

著者	高屋敷 明由美
著者別名	Takayashiki Ayumi
発行年	2013
その他のタイトル	Motives, difficulties and career goals of medical students who entered medical school under the special admission system for medically underserved areas in Japan
URL	http://hdl.handle.net/2241/120942

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22590453

研究課題名（和文） 「地域枠の医学生が有する将来へのビジョンと在学中に遭遇する困難」の全国調査

研究課題名（英文） Motives, difficulties and career goals of medical students who entered medical school under the special admission system for medically underserved areas in Japan

研究代表者

高屋敷 明由美 (TAKAYASHIKI AYUMI)

筑波大学・医学医療系・講師

研究者番号：80375500

研究成果の概要（和文）：全国の平成 22 年度地域枠の入学生および 24 年度 3 年生を対象に、将来のキャリア希望、医師不足地域での診療への意思およびかかえているストレスについての調査を行った。各々 38 大学 542 人、33 大学 475 人を対象に調査を実施し、回収率は 81.7%、65.7%であった。地域枠入学生の多くが地域医療に貢献したいと高いモチベーションをもって入学してきたが、3 年生になってからは、その意思を持つ学生の割合が低い傾向が観察された。

研究成果の概要（英文）：We conducted nationwide survey in 2010 and in 2012 of *chiikiwaku* students. The subjects were all first-year/ third-year *chiikiwaku* students belonging to medical schools whose deans had agreed to join our survey. In the questionnaire, we asked about their primary reasons for applying to the *chiikiwaku* admission system and their intention to work in medically underserved areas (MUAs). Thirty-eight and 33 schools Of 63 medical schools that had introduced the *chiikiwaku* admission system participated respectively/. Response rate was 81.2% (440 of the 542 *chiikiwaku* students) and 65.7% (314 of the 475 *chiikiwaku* students). Most students had entered medical schools responding motivation to contribute to MUAs. However, the rate of third-year students who had high intention to work in MUAs was lower than that of freshmen.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：医学教育学、総合診療医学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：地域医療学、地域枠、医療崩壊、キャリアパス

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年地域医療崩壊はますます深刻化しており、現在全国の大学医学部では地域枠の

入学者を受け入れることで、将来の地域医療に携わる医師の人員を確保しようという取

組みが実施され、平成 22 年度には 1000 人以上が地域枠で入学した。

(2) 医師不足地域における診療を単に duty として課すだけでのその場しのぎの方策で、医師の定着につなげることは難しいとの指摘もある。また、将来の就労義務や将来の地域医療の担い手としての大学や社会の期待を負担となりうる可能性も示唆されている。

(3) 今後の地域医療の担い手の養成のあり方を考える上で、地域枠医学生の地域枠入学への動機、ならびに彼らの考える将来のビジョンを知ることが重要である。

(3) しかし、地域枠で入学し得た医学生が有する将来の働き方へのビジョンは明らかになっていない。

そこで、我々は地域枠学生の医師不足地域における就労などに関する就労の意思と、地域枠入学であることが医学生自身に及ぼす在学中の影響をテーマとした研究着想に至った。

2. 研究の目的

(1) 第一に、①地域枠医学生の入学動機、②どのような将来のキャリアイメージ・志向を持っているのか、③地域枠の学生が抱える困難（就労義務などに関する負担感など）④医師不足解消への貢献の意思を明らかにすることである。

(2) 次に、①のキャリアイメージが地域枠でない一般の医学生とどのような相違点があるのかを明らかにすることである。

(3) 更に、②③④について入学後 2 年たった 3 年生の現状を把握することである。

これらを把握することで、全国の医学教育関係者に、地域枠学生のキャリアプランやかかえている困難についての現況を示すことが可能となる。さらには、全国の大学医学部に対して、地域枠学生のニーズにそったサポートを行い地域医療に携わる医師の育成に

むけたプログラムを作成するための提言を行うことが可能となる。

3. 研究の方法

(1) 平成 22 年度調査

①地域枠学生調査

平成 22 年度に地域枠*を導入している 63 大学(自治医科大学を除く)のうち、調査に同意の得られた大学 (38 大学) に在籍する平成 22 年度地域枠全入学生 (1 年生) 542 人を対象に、平成 23 年 9 月～平成 24 年 2 月に調査を実施した。(調査実施大学の設立母体内訳 国立 22 大学 公立 7 大学 私立 9 大学)

*地域枠の扱いが自治体・大学によりさまざまであるため、本研究においては、「卒業後に特定の条件(地域や年数)で就労することを確約して入学する枠」と定義した。調査項目は、①基本情報、②将来のキャリアデザインについては志望する診療科・勤務地域など③入学についての動機、④地域枠であることのメリット、デメリット、⑤日本に医師不足についての認識である。

②一般学生調査

全国に分布する 8 大学 (3 国立大学、2 公立大学、3 私立大学) に在籍する平成 22 年度全入学生 (1 年生) 902 人を対象に平成 23 年 9 月～平成 24 年 2 月に調査を実施した。調査項目は地域枠学生調査の①④⑤である。

(2) 平成 24 年度調査

①平成 22 年度調査に協力の得られた 38 大学に、追跡調査の協力を依頼した。同意の得られた 33 大学の 3 年生の地域枠学生 (計 457 名) を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は、平成 22 年度とほぼ同じ項目である。

4. 研究成果

(1) 実施状況 表 1

	平成 22 年度 1 年生		平成 24 年度 3 年生
	地域枠	一般	地域枠
大学数	38	8	33
対象者数	542	768	457
回収数 (回収率)	440 (81.2%)	579 (75.4%)	314 (68.7%)

(2) 集計結果

基本属性

表 2 性別

	平成22年度 1年生		平成24年度 3年生
	地域枠	一般	地域枠
男性	57.1%	67.1%	57.2%
女性	42.9%	32.9%	42.8%

表 3 出身地

	平成22年度 1年生		平成24年度 3年生
	地域枠	一般	地域枠
都市	13.5%	34.4%	7.6%
都市周辺の郊外	12.5%	27.3%	12.6%
小都市	41.7%	27.6%	46.2%
町村部	29.6%	9.8%	30.9%
離島・へき地	2.7%	0.9%	2.2%

表 4 出身高校

	平成22年度 1年生	
	地域枠	一般
国公立	56.6%	33.0%
私立	43.4%	66.4%
その他	0%	0.5%

表 5 基本属性 (その他)

	平成22年度 1年生	
	地域枠	一般
既婚	0.7%	0.7%
子供がいる	0.7%	0.4%
家族身近な親戚に医師がいる	35.7%	58.1%
(複数回答) 開業医	15.7%	42.6%
勤務医	21.7%	30.0%
その他	2.2%	2.3%
入学前の通院・入院経験	49.2%	48.2%

① 地域枠医学生の入学動機：平成 22 年度調

査より (地域枠を選択した最も大きな理由)

地域の医師不足に貢献するため 30.4%

医学部に進学したかったから 27.1%

比較的入学しやすいから 18.3%

地域枠には奨学金がついているから 17.9%

② 将来のキャリアイメージ

図 1 希望の診療科 (複数回答) 地域枠学生

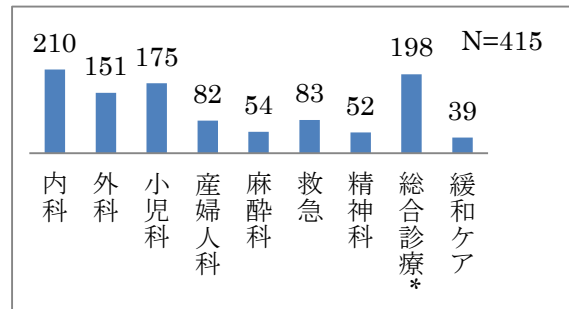
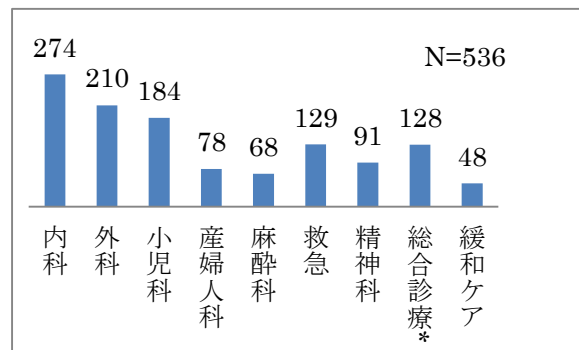


図 2 希望の診療科 (複数回答) 一般学生



* 総合診療 (家庭医、プライマリ・ケア医)

表6 将来の希望

		是非 したい	でき れば したい	あまり したく ない
専門医 取得	地域枠	45.5%	38.2%	2.2%
	一般	43.0%	41.1%	2.2%
大学院 進学	地域枠	6.2%	18.1%	12.1%
	一般	10.0%	19.6%	17.0%
海外 研修	地域枠	25.1%	35.3%	11.8%
	一般	31.6%	35.7%	10.9%

③地域枠の学生が抱える困難

図3 卒業後に就労義務があることをストレスに感じているか

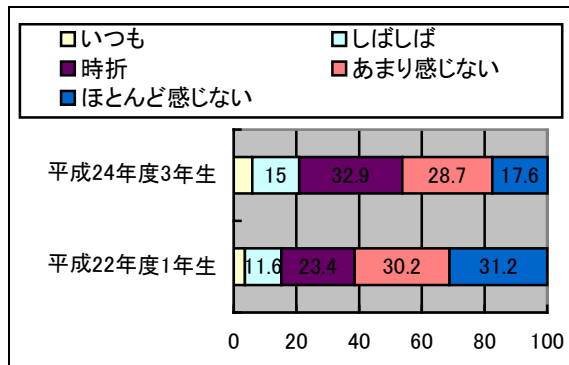
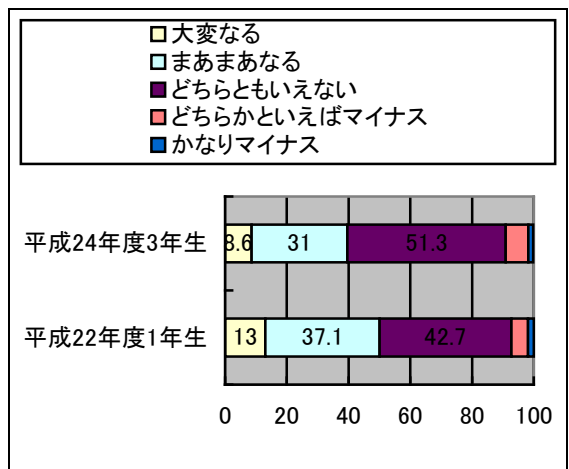


図4 地域枠であることが学業での励みになるか



地域枠であることで学生生活にメリット/デメリットがあるか。

平成22年度1年生 (有りの回答割合)

メリット 37.9% デメリット 15.7%

平成24年度3年生 (有りの回答割合)

メリット 44.2% デメリット 24.2%

メリット:親の負担が軽減、地域の医療従事者の方々や、地域枠の先輩や同学年の人との繋がり、地域医療セミナー等に参加する機会を頂ける(自由記載抜粋)

デメリット:地域枠の活動を最優先しなければならないこと(時に部活やプライベートに支障が出る)、将来働く場所が制限されること、人前での発表・ミーティング等が多くてストレスを感じる、拘束されているように感じたことがある(自由記載抜粋)

④医師不足解消への貢献の意思

図5 義務年限終了後、医師不足の地域に就職したいか

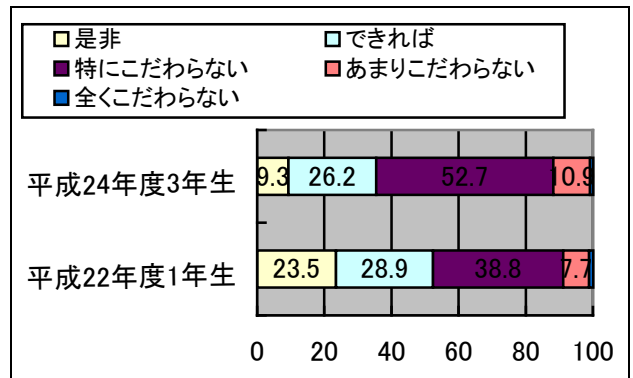
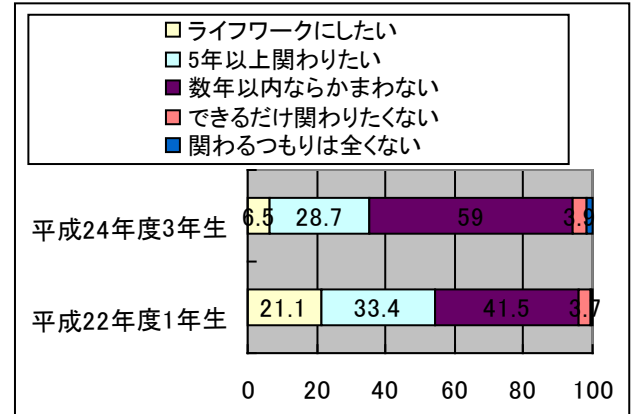


図6 もしも特定の地域での就労義務がないとすれば、卒業後医師不足の地域の診療にどの程度関わりたいか。



(3) 結果のまとめ

- ・地域枠の学生は一般学生に比して町村部出身の学生が多い
- ・地域枠で入学した理由として、3割の医学生が、医師不足解消に貢献したいと回答し、地域医療の担い手として高いモチベーションをもっていることがわかった。
- ・希望の診療科について、内科に次いで総合診療を希望する学生が多かった。
- ・地域枠であることが学業の励みになる、学生生活にメリットがあると考えている学生が一定数いる反面、ストレスを感じるまたはデメリットがあると感じている学生もいる。
- ・将来の医師不足地域での診療への貢献について積極的な学生は、入学時に比して3年生の方が少ない傾向が観察された。

今回の集計は、2回の横断調査としての結果を提示したが、今後2年前のデータと連結して、個別の地域枠学生の考えの変化を明らかにするための解析を行う予定である。更に、卒業前までのコホート調査を行っていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計5件)

- (1) 高屋敷明由美、将来医師不足地域での診療に関わりたいか?～地域枠学生と一般学生の比較、第44回日本医学教育学会大会、2012年7月28日、慶応大学、横浜
- (2) MAENO TETSUHIRO, Motives and career goals of medical students who entered medical school under the special admission system for medically underserved areas in Japan, The 19th WONCA Asia Pacific Regional Conference, May24-27, 2012 (Jeju, Korea)
- (3) 前野哲博、地域枠医学生の入学動機と将来の進路選択に関する全国調査、第43回日本医学教育学会大会、2011年7月22日、国際会議場、広島
- (4) 高屋敷明由美、地域枠医学生の将来の進路希望の実態～非地域枠学生との比較、第2回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会、2011年7月3日、ロイトン札幌、札幌
- (5) 栗原宏、医学部低学年と高学年において進路選択に影響を与える要因。第2回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会、2011年7月3日、ロイトン札幌、札幌

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高屋敷 明由美 (TAKAYAHIKI AYUMI)
筑波大学・医学医療系・講師
研究者番号：80375500

(2) 研究分担者

前野 哲博 (MAENO TETSUHIRO)
筑波大学・医学医療系・教授
研究者番号：40299227

小林 志津子 (KOBAYASHI SHIZUKO)
東京医科大学・医学部・兼任講師
研究者番号：20569602

(3) 連携研究者

前野 貴美 (MAENO TAKAMI)
筑波大学・医学医療系・講師
研究者番号：80528480